

JFA 第46回全日本U-12サッカー選手権大会 参加報告

兵庫県サッカー協会 小林顯太

-目次-

- 1.はじめに
- 2.大会概要
- 3.事前研修会
- 4.担当試合,研修会
- 5.終わりに



**JFA 46TH U-12 JAPAN FOOTBALL
CHAMPIONSHIP**

JFA 第46回全日本U-12サッカー選手権大会

1. はじめに

12月26日より鹿児島県で開催されました「JFA 第46回全日本U-12サッカー選手権大会」に審判員として参加しましたので、ご報告させていただきます。

このような大会に推薦していただきました関西サッカー協会の皆様、日頃からご指導いただいている兵庫県サッカー協会の皆様、大会期間中にお世話になりましたすべての皆様に感謝申し上げます。

2. 大会概要

大会名称：JFA 第46回全日本U-12サッカー選手権大会

大会日程：2022年12月26日～12月29日

開催地：鹿児島県鹿児島市

3. 事前研修会

大会期間前の3日間各1時間でZOOM事前研修会が行われました。

-第1回事前研修会-

- ・大会の開催趣旨の確認
- ・大会スケジュールの確認
- ・referee team の紹介
- ・地域協会ごとの顔合わせ

が行われました。

-第2回事前研修-

第1回事前研修会で宿題となっていた

- ・競技規則(11人制,8人制)
- ・大会レギュレーション

の確認を行いました。

- ・大会の試合映像を見てどのように感じたのか

・審判員として試合にのぞむために考えていること
について、グループディスカッションを行いました。
また、グループディスカッションから以下のことを学びました。

審判 TEAM のキーワード

- ・時間を意識する
- ・雰囲気から気づく
- ・やってみる

8人制サッカーのキーワード

3S(フィジカル・プレー・判断)

-第3回事前研修会-

メンバー表・公式記録に関する説明がありました。

その後、審判員4名、地域インストラクター2名のグループになり、30分間グループディスカッションを行いました。

4. 担当試合,研修会

各班4人の審判員と地域インストラクター2名が8グループに分かれて試合に臨みました。

私はピッチ1担当であり、メンバーは

審判員：関川伽音氏（青森県）

藤田海豪氏（神奈川県）

小崎一心氏（三重県）

小林顯太（兵庫県）

地域インストラクター：辻村俊司氏（広島県）

福田幸則氏（長崎県）

【大会前日（12/25）】

-リスペクトワークショップ-

大会に参加する選手と審判員が立場の壁を越えて「リスペクト」について考え、互いに「リスペクト精神」の理解を深めました。

-研修会-

大会の注意事項確認、割当の発表、メンバー顔合わせ

大会のテーマ「試合のために必要なことが何かを考え、努力する」

【大会1日目（12/26）】

-担当試合-

グループ A

V・ファーレン長崎 U-12 (長崎県) vs アバンティ茨木 FC (大阪府)

主審：藤田海豪氏 補助審判：小林顯太

グループ I

ツエーゲン金沢 U-12 (石川県) vs ヴェルフェ矢板 U-12 (栃木県)

主審：小林顯太 補助審判：藤田海豪氏

グループ H

ディアブロッサ高田 FC U-12 (奈良県) vs ヴェルディ SS 岩手 U-12 (岩手県)

主審：藤田海豪氏 補助審判：小林顯太

-試合振り返り-

試合を大きな問題なく終わらせることができた為、目的は達成することができた。外からプレーを見る形になってしまい PA 内の事象が遠くなってしまうことがあったとインストラクターからアドバイスをいただきました。

-研修会-

ピッチごとに振り返り (翌日の割当決定と大会のために翌日の試合にどう望むかについて話し合い) ,全体ミーティングで JFA 審判委員長 扇谷氏からお言葉をいただきました。

【大会 2 日目 (12/27)】

-担当試合-

グループ F

ソレツソ熊本 U-12 (熊本県) vs 大山田サッカースポーツ少年団 (三重県)

主審：小林顯太 補助審判：関川伽音氏

フレンドリーマッチ

アバンティ茨木 FC (大阪府) vs ブラウブリッツ秋田 U-12 (秋田県)

主審：小林顯太 補助審判：藤田海豪氏

ラウンド 16

アイエスエス F.C (岐阜県) vs 高部 JFC (静岡県)

主審：藤田海豪氏 補助審判：小林顯太

-試合振り返り-

チームの戦術・やりたいことを理解し、ポジションを試合の中で修正することができました。前日の試合では、外から見るが多かったが、適切なポジショニングでプレーを監視することができました。また、積極的にアドバンテージを適用し、アドバ

ンテージがゴールに繋がった。試合後に、得点を決められたチームのコーチの方からアドバンテージをお褒めいただきました。しかし、PA内が動きながらの監視になっているので、PA内はできるだけ止まって監視するべきであると、インストラクターからアドバイスをいただきました。また、PA外からロングシュートが打たれボールがクロスバーに当たりゴールライン上にボールが落ちてGKがキャッチするという事象が起きました。試合後にインストラクターの方からライン上で監視することは状況から不可能であるから、シュートが打たれるとわかったタイミングで角度をとって、ゴールラインの監視するべきであるとアドバイスをいただきました。

-研修会-

技術と審判の協調として、JFA技術委員の方が担当され、JFAの今後のビジョン、現在の世界のサッカーのトレンド、JFAが各年代でどのようなことを選手にもとめているのかを学ばせていただき、そのために審判員として「何ができるのか」などをグループで話し合い、共有しました。その後、第43回大会で決勝を担当された白拍子氏からお言葉をいただきました。最後に、全体ミーティングを行いました。

【大会3日目（12/28）】

-担当試合-

フレンドリーカップ, カテゴリー2, 準々決勝

サンフレッチェ広島 F.C ジュニア（広島県） vs 江南南サッカー少年団（埼玉県）

主審：小林顯太

フレンドリーカップ, カテゴリー2, 3位決定戦

五戸すずかけ SC U-12（青森県） vs サンフレッチェ広島 F.C ジュニア（広島県）

主審：小林顯太

-試合振り返り-

フレンドリーカップを担当させていただいたので、大会期間中にいただいたアドバイスなどから改善したいことに積極的にチャレンジしました。

動きの部分で中盤で巻き込まれてしまうシーンなどがあり、たくさんのエラーがあったがその中でできたこと・できなかった課題点を見つけることができました。

また、インストラクターの方から得点のシーンでサンフレッチェ広島のFWの選手の手使い方が相手競技者を押さえる反則であったとアドバイスをいただいた。また、相手競技者を押さえる反則について基準が明確ではないとアドバイスをいただいた。

5. 終わりに

